

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	栃木県	市町村名	栃木市	大学名	
派遣日	令和6年7月9日(火曜日) 13:30~16:30 【栃木市日本語指導研修会】 1 研究授業及び授業参観 13:30~14:15 日本語初期指導「日記を書こう」 2 授業研究会 14:25~15:15 3 講話 15:15~15:55 4 情報交換等 16:00~16:30				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <u>派遣</u> / 遠隔				
派遣場所	栃木市立栃木中央小学校				
アドバイザー氏名	市川 昭彦 先生				
相談者	栃木市教育委員会事務局学校教育課 グローバル教育推進室				
相談内容	・異学年の児童生徒に対する効果的な初期指導について ・先進校の実践について ・持続可能な指導・支援体制の構築について				
派遣者からの指導助言内容	「外国人児童生徒教育への理解と指導法について」～JSL5支援をいかして～ 1 現状と近未来への課題 ・少子化に伴う日本人労働力の減少、外国人労働者を受け入れるための入管法の規制緩和により、外国人人口が増加している。そのため、日本語指導が必要な児童生徒も年々増加し、多言語化している現状がある。今後も、その状況は続いていく。 ・高等学校において、通常の授業とは別に学校ごとの判断で放課後等を実施している日本語指導について、文部科学省は正式な単位として認める方針を固め				

た。また、日本語指導が必要な児童生徒の人数に応じて教員を配置する等、様々な取組が進められている。

2 JSLカリキュラム教科志向型授業づくり

(1) JSLカリキュラムとは何か

- ・ JSLカリキュラムとは、日常会話はある程度できるが日本語の力が不十分なため、学年相当の学習言語が不足し、在籍学級での日常の学習活動に支障が生じている児童生徒に対して、学習活動に参加するための力を育成するカリキュラムである。
- ・ JSL5支援とは、日本語指導における5つの支援（理解支援、表現支援、記憶支援、自律支援、情意支援）であり、本日の研究授業でもそれらの支援が適切に行われ、児童生徒の学習を支えていた。

例：絵や写真で示したり、簡単な言葉で言い換えたりする…理解支援

日記文のモデルを示す…表現支援

声に出して読むようにする…記憶支援

昼休みに遊んだことを全員で振り返って書けるようにする…自律支援

夏休みにも日記を書こうという見通しをもてるようにする…情意支援

(2) 教科志向型JSLカリキュラムの実践例（社会科、算数科）について

- ・ 4年生社会科の浄配水場の見学の前に「ミニミニじょう配水場をつくろう」を行うことで、その後の在籍学級での社会科の学習に自信をもって参加できる。
- ・ 異学年グループで行った算数科の授業「小数点のうちかたから理由を考えよう」では、学年差を意識したグルーピングを通して教え合う姿が見られ、自尊感情を育てることができた。本日の研究授業でも、異学年の児童生徒が教え合う場面が見られた。ただ、小学校1年生と中学校3年生と一緒に学習することは難しいかもしれない。

(様式 3)

相談後の方針の変化、今後の取組方針等	・ 在籍学級の学習活動に参加するための力を育成するという視点での日本語指導について指導担当者の理解が深まった。(研修アンケートの肯定的回答100%) ・ 本市では、拠点校での日本語初期指導を終えた児童生徒は、在籍校で教科につながる学習の指導を受けるが、指導者が変わっても指導・支援に一貫性をもたせることができるよう、指導担当者や児童生徒に関わる教員間でJSLの5つの支援について共通理解を図ることが重要であると再確認できた。今後の研修等で広く周知していきたい。 ・ 持続可能な指導・支援体制の構築については、今後の大きな課題といえる。現在の体制では、今後も予想される日本語指導が必要な児童生徒の増加に対応しきれなくなることが予想される。日本語指導が必要な児童生徒の人数に応じた教員の配置が適正に円滑に行われるようにしていく必要があると考える。
--------------------	---

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。